

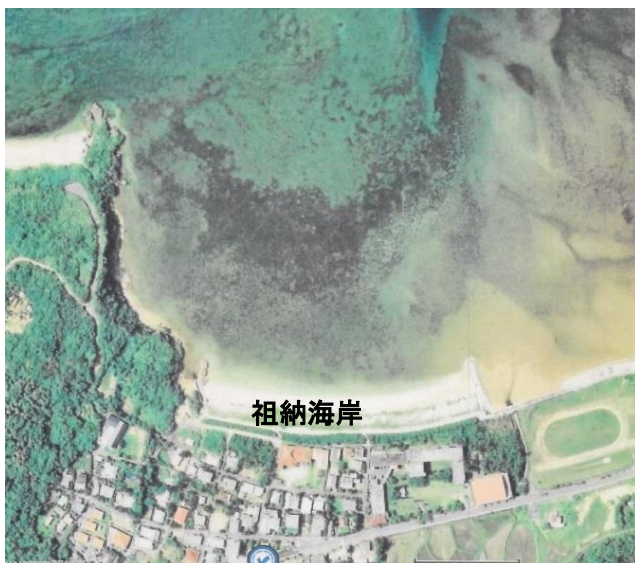
西表島海岸での外来植物駆除、在来植物植栽による原風景回復 (中間報告)

西表在来植物の植栽で地域振興を進める会

沖縄県

目的：沖縄県の海岸では木本・草本外来植物が繁茂して景観を損ねているばかりか、貴重な在来植物の生息を脅かすことで自然環境に悪影響を及ぼしている。当活動では外来植物を駆除して在来の海浜植物、クロイワザサ、を植栽することで、琉球亜熱帯海岸の原風景を回復することを目的としている。一方、丈のある植物の繁茂は、漂着ゴミの集積をもたらし、不法投棄の場ももたらしている。当活動はこの問題の効果的な解決提案でもある。原風景の回復は、海岸の美化と共に主要産業である観光業にも貢献できる。西表島祖納海岸での活動であるが、この活動をモデルとし、沖縄県全域に活動を広げる啓蒙も展開する。

活動場所：沖縄県西表島祖納海岸



活動内容(3-15 ページにある様にインターネット公開) :

<植栽準備のための除木と除草> 海岸には緊急対策・重点対策外来種のアメリハマグルマ、ギンネム、モクマオウ、センダングサ等が繁茂しているが、これらを駆除している。これら植物は丈があり、在来の海浜植物を被い、生長を妨げている。草払い機、チェーンソーで繁茂した植物を除去しているが、モンパノキ、クサトベラ等の在来木本は、景観と木陰のために残している。駆除と合わせて、茂みに留まっている漂着ゴミの回収も行っている(漂着ゴミは定期的に行われる公民館の漂着ゴミ回収に協力する形で運搬と処分をしてもらっている)。駆除後に根茎等から芽を出した、また新たに発芽した植物を鎌等の道具を使って除去し、整地を行っている。ほぼ毎月行っている。

<景観改善、飛砂防止のための植栽> クロイワザサはポット苗として購入したものを会員、インターネットで募ったボランティアによって植えている。整地後に苗を 30 cm 間隔で植えている。間隔が狭いと後の除草の作業が少なくなるが、できるだけ広い面積の植栽を迅速に勧めたいため、現在はこの間隔としている。植栽後は灌水をしているが、クロイワザサは干ばつに強く、一度の灌水で問題は生じていない。ほぼ隔月で行っている。

<植栽苗の生長のための除草> クロイワザサは海岸では草丈が 5 cm 程であるが、他の植物が覆い被さると生長が衰えるため、全面植被まで他の植物の除木、除草を行っている。砂浜には大量の埋蔵種子が存在し、雑木・雑草の駆除によって光が当たった種子が降雨後に発芽するため、発芽後の幼植物を駆除する必要があり、また砂の中に残った根茎等からの植物の駆除も必要となる。クロイワザサが地表を覆い尽くすと埋蔵種子の発芽が抑えられ、管理は極めて容易となる。この状態に速やかに到達することが重要となる。除草は植栽地の状況を判断しつつ、毎月行っている

経費 : 経費の全ては苗代である。西表島への持ち込まれる植物は外国産の種ばかりではなく、例え同種の在来種が西表島に生育していても、これを島外から持ち込めば国内外来種となる。自然度が高く、また今年の夏にも世界自然遺産登録を控えた西表島では国内外の外来植物を植栽することは避けなければならない。このため、会では西表産のクロイワザサを増やしたものを用いている。

計画の達成度 : 植栽直後の苗が台風によって埋もれてしまい、ここでの植栽を二度したこと以外は活動は順調に進んでいる。

今後の課題 : 西表島の自然環境の保全には地域住民が自然環境についての知識を深め、誇りを持つことが重要であるが、この点の啓蒙をさらに進める。植栽ボランティアの人数が少ないため、この増加のための活動も行う。

植栽活動の紹介：海岸

西表在来植物の植栽で地域振興を進める会（任意団体）は海岸での景観改善と飛砂防止を目的にクロイワザサ等の海浜地被植物を植える活動をしています。この活動では下記の団体から助成を受けています。植栽活動の普及のため、また助成のご好意に沿うため、毎月の活動をインターネット上で紹介しています。なお、クロイワザサの育て方等については[クロイワザサ植栽マニュアル](#)を参照して下さい。（問い合わせ先：nqf31226@nifty.com）

助成団体

公益財団法人 日野自動車グリーンファンド（平成29年11月から30年10月まで）

タカラ・ハーモニストファンド（平成30年6月から令和2年5月まで）

セブン-イレブン記念財団 環境市民活動助成（平成31年4月から令和2年3月まで）

イオン環境活動助成（平成31年4月から令和2年3月まで）

[平成29年11月～30年3月](#)

[平成30年10月～平成31年3月](#)

[平成31年4月～令和元年9月](#)



平成30年6月

植栽地全域で除草を行った。サキシマハマボウが活着し、生長を始めた。



除草後の様子。クロイワザサが植栽地のほぼ全面を被うようになった。



植栽地の東端で除草を行った。



平成30年7月

これまでの植栽地全域で除草を行った。クロイワザサが密生した場所では雑草が少ない。



植栽整備地でも除草を行った。



整備地で新たな植栽を行った。



平成30年8月

植栽地全域で除草を行った。



整備地で、植栽がされていない所で植栽を行った。手前のクロイフザサは自生株で、除草の後に活発に生長をしたもの。



植栽整備地と植栽に際し、漂着ゴミの回収を行っているが、回収後の状態。



平成30年9月

植栽地全域で除草を行った。



植栽地拡大のため、除草と整地を行った。



前記の整備地で植栽を行った。



平成30年10月

台風のため漂着ゴミが植栽地に散乱した。



漂着ゴミの除去後。9月に植栽した苗でクサトペラの風下にならない苗が砂で埋まった。掘り起こしたが、この作業が遅れて半分以上が枯死した。



砂で埋まった苗の掘り起こし。防風となる木が無い所での植栽時期については配慮が必要。



平成30年11月

植栽地で除草をした。



大量の漂着ゴミが植栽地とこの海側の砂浜にあり、これを回収した。植栽地での回収が容易なことを確認した。



回収後。



平成30年12月

植栽地で除草をし、新たな植栽地の整備を行った。



除草後の整備地、センダングサ等を取り除いた。



整備地東端での植栽。



平成31年1月

前月に整備した場所で植栽を行った。



植栽後。これまでの植栽地での軽度の除草も行った。



クサトベラが繁茂し、クロイワザサ植栽地に覆い被さってきたので一部の枝を切り落とした。



平成31年2月

新たな植栽地の整備を行った。



これまでの植栽地でクサトペラの刈り込みを行った。



植栽地全域での除草も行った。



平成31年3月

車いす用スロープでの除草（除草中）。



除草後。



植栽地車側で新たな植栽のための伐採を行った。



平成31年4月

これまでの植栽地で除草を行った。クロイフザサの密生地では作業は極めて容易である。



スロープでの除草を行った。



除草後。



令和元年5月

東端植栽地での除草。



除草後。



ハマオモトを植えていたが、虫の食害にあった。今後の回復を期待している。